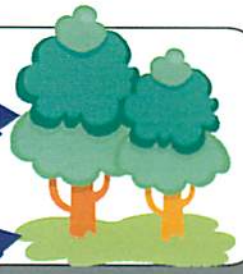


ねっとわーく



22. 5. 25 No.3

■授業研ありがとうございました

自分のことで恐縮です。昨日の授業研ならびに事後研では、たくさんのご意見・感想等いただきありがとうございました。また、6/30の算数の授業に向けての事前研、田宮先生、渡辺先生、土田先生、ご苦労様でした。

以下思うままなのですが、何点か、自分のことや今後の学校研究推進にかかわるであろうことを述べたいと思います。

◎事前研のよさ

私事ながら、先生方には、本当に忙しい中、実は、今回、2回の事前研を開いていただくという幸運にめぐまれました。本当にありがとうございました。

授業を創るにあたって、自分で、校内研究のスタイルにあてはめて授業を考えていくと、どうしても一つの方向からしか見れなくなってしまう。そうしたときに、先生方から意見やアイデアをいただくと、「なるほど!」と自分の視野が広がりました。とてもありがたかったです。

昨日の遠藤指導主事から「同僚性」をいう言葉がありました。南部はすぐれた先生方が本当にそろっている(若輩者が大変失礼なのですが(笑)…。日頃から、授業や子どもたちについて、お悩み相談的なおしゃべりができている環境を、引き続き、大事にしたいと思いました。

◎「しる」について

何を教えたいかを、究極(笑)までしぼり、昨日の授業に臨んだつもりでした。後半の「考える(今回はゲーム)」に時間をとって、そこから生まれる子どもたちのやりとり(まあ、「学び合い」)に発展すれば…と淡い期待を抱いていたのですが…。

率直な感想として、時間が足りない……。一方的にならずに、シンプル、コンパクトに……。うーむ、今後の課題です。

◎「自己評価のA・B・C」

子どもをよくみるといいながら、みえていませんでした。「何ができればAなのか。Bなのか」子どもたちに、判断基準をしっかりとらせること。勉強になりました。

◎体験活動の有用性

ゲームのアイデア、阿部先生ありがとうございました(〜♪事後研でも語られましたが、よかったなあと感じています。子どもたちの班でのつぶやき等も、参観された先生方から伝えていただき、嬉しかったです。しかしながら、…

本校の研究でいえば、理解深化課題に何をもってくるか、そこでなにをねらうのか、前段の「しる」段階とのつながりとのつながり…考えれば考えるほど難しいなあと、悩んでいます。



近々、研究紀要用の「授業のまとめ」を出したいと思っています。今年は、授業後にA4ー2枚にまとめます。